

いつ外出し、また帰宅したかがわからず。またコミュニケーションをとらない場合、親子は必ず顔を合せ、2階の個室や室外階段がつき、玄関もハラバラなら、なおさらだろう。

これに対して、リビングやダイニングをつなぎ、自分の部屋に上がりきれない場合、親子は必ず顔を合せ、2階の個室や室外階段がつき、玄関もハラバラなら、なおさらだろう。

これに対して、リビングやダイニングを引き出しあわせに変わったのだ。ハウスマーカーの取り組みとしては、ミサワホームが1990年代にいち早く「セントラーリビング設計」として、セントラルを取り、提案を始めた。玄関ホールとリビングをダイレクトつなげ、リビングを通じてから階段上がる階段につながる設計である。

玄関から入った人、どの部屋に行こう、まず「ビング」を通らなければならぬ。こうした設計をするにとて、家族の心配を感じ、また顔を合わせ、会話をわすれ環境をつくりだす。

現代の暮らししながで重視されるコミュニケーション講義のかけあい

こうしたセントラーリビング設計の考え方は現代の30代を中心とした家族にも十分に当てはまる。

キッチャン側は大きなカウンターデスクを用意し、そこで勉強せせるようにした。また階段の吹き抜けに隣接したスペースには、ファミリーライブリームを設置。1階の気配を感じながら、子どもが安心して読書ができるような空間とする。

見ていて気がつくのは、家庭教育と勉強が大きめわり合っていること。

かつてのように、「子どもの自由の部屋で勉強しない」と個室に閉じこもる暮らしがなっていません。

同社では「手元感覚を感じる商品の一つ」と言える。子育て、教育をキーワードとした住まいの提案はこれからさらに説得力を持つものになる可能性がある。

「家庭」を基本に人間が形成される

「子どもの部屋」が日本に登場するのは戦後のことで、1955年に日本住宅公団が発足し、以降、「DK」の概念が日本の住まいでは一般的な考え方になつた。

例は09年、ムジ・ネットでの無印良品が家の第3弾として「家の家」という商品をリリースした。同社では、インターネットを通じて「皆考える住まいのかたち」調査を実施しており、毎回1万人ほどからの回答がある。普段の暮らしのなかから発想する家づくりの「おかげ」、その「カタチ」という言葉が生まれたのが、「朝の家」だ。

一次取得専属をターゲットとした商品だが、その企画のなかに「センター・ダイニング」という考え方を取り入れている。いまの家族の団らんの場所はダイニングが中心というのがアンケート調査から導き出された「一つの答え。例えば夕食後、母親はキッチン、子どもはダイニング、父親はリビングで週末割合が多いといふ。そこで家族がともに同じ時間を見度すために、二つの「ビング」として、夕食後、母親はキッチンで家事をし、子どもはダイニングテーブルで宿題を、父親はリビングでくつろぐ。一つの空間でも、母親が育児を、子どもが遊びを、父親が仕事をする、つまり「百両先生」の提案をして盛り込んでいる。ちなみに、それを子どもが自分で親に尋ねることができる。そんなコミュニケーションを生まれる工夫をしている。

DKリビングができるだけ大きさそのため、玄間を開けてからの廊下はなく、廊下を歩いて玄関へ向かう。最近の取り組みで「二ノ居」なのは積水化学工業の「かけやまモデル」。これは立命館大学の注山英男教授と共同開発した「子どもが育む家」の提案。子育てで多くの負担を背負う「百両先生」の提案を見ていくと、「リビングダイニングで家庭学習や積極的に利用する、料理は想像力、親子でクリッキングを楽しもう、大型テープルがある」と子どもは勝手に工夫して使っている。

住(10)の提案を見ていくと、「リビングダイニングで家庭学習や積極的に利用する、料理は想像力、親子でクリッキングを楽しもう、大型テープルがある」と子どもは勝手に工夫して使っている。

住(10)の提案を見えていくと、「リビングダイニングで家庭学習や積極的に利用する、料理は想像力、親子でクリッキングを楽しもう、大型テープルがある」と子どもは勝手に工夫して使っている。

「子どもが賢くなる家」に上場層に注目

では、勉強を前提とした「教育」という側面ではどうだろうか。

最近の取り組みで「二ノ居」なのは積水化学工業の「かけやまモデル」。これは立命館大学の注山英男教授と共同開発した「子どもが育む家」の提案。子育てで多くの負担を背負う「百両先生」の提案を見ていくと、「リビングダイニングで家庭学習や積極的に利用する、料理は想像力、親子でクリッキングを楽しもう、大型テープルがある」と子どもは勝手に工夫して使っている。

住(10)の提案を見ていくと、「リビングダイニングで家庭学習や積極的に利用する、料理は想像力、親子でクリッキングを楽しもう、大型テープルがある」と子どもは勝手に工夫して使っている。

「子どもが賢くなる家」に上場層に注目

想は、現代家族のニーズにマッチする「二ノ居」。さらに最近ではダイニングを机の上での勉強の拠点になつてある

つまり、センターリビング設計の発想は、現代家族のニーズにマッチする「二ノ居」。さらに最近ではダイニングを机の上での勉強の拠点になつてある

「子どもが賢くなる家」に上場層に注目

想は、現代家族のニーズにマッチする「二ノ居」。さらに最近ではダイニングを机の上での勉強の拠点になつてある

「子どもが賢くなる家」に上場層に注目

想は、現代家族のニーズにマッチする「二ノ居」。さらに最近ではダイニングを机の上での勉強の拠点になつてある

「子どもが賢くなる家」に上場層に注目

想は、現代家族のニーズにマッチする「二ノ居」。さらに最近ではダイニングを机の上での勉強の拠点になつてある

「子どもが賢くなる家」に上場層に注目

想は、現代家族のニーズにマッチする「二ノ居」。さらに最近ではダイニングを机の上での勉強の拠点になつてある

「子どもが賢くなる家」に上場層に注目

想は、現代家族のニーズにマッチする「二ノ居」。さらに最近ではダイニングを机の上での勉強の拠点になつてある

「子どもが賢くなる家」に上場層に注目

想は、現代家族のニーズにマッチする「二ノ居」。さらに最近ではダイニングを机の上での勉強の拠点になつてある

想は、現代家族のニーズにマッチする「二ノ居」。さらに最近ではダイニングを机の上での勉強の拠点になつてある

想は、現代家族のニーズにマッチする「二ノ居」。さらに最近ではダイニングを机の上での勉強の拠点になつてある

した。雑を脱いでホールドアを空けたりリビングであり、そこを必ず通らなければ自室には行かない間取りとなっている。

つまり、センターリビング設計の発想は、現代家族のニーズにマッチする「二ノ居」。さらに最近ではダイニングを机の上での勉強の拠点になつてある

「子どもが賢くなる家」に上場層に注目

想は、現代家族のニーズにマッチする「二ノ居」。さらに最近ではダイニングを机の上での勉強の拠点になつてある

想は、現代家族のニーズにマッチする「二ノ居」。さらに最近ではダイニングを机の上での勉強の拠点になつてある

想は、現代家族のニーズにマッチする「二ノ居」。さらに最近ではダイニングを机の上での勉強の拠点になつてある

インタビュー



一級建築士
横山彰人氏
(横山彰人建築設計事務所
代表取締役)

Housing Tribune: 2010. 8-9

自に見えない家族の「空気感」や「気配」を、家のなかに

私の今の仕事は、リフォームも含め、住宅の設計で圧倒的な割合を占めています。これまで、「危ない間取り」というこというべき、まさに近所にははダイニングを机の上での勉強の拠点になつてある

「つまり、センターリビング設計の発想は、現代家族のニーズにマッチする「二ノ居」。さらに最近ではダイニングを机の上での勉強の拠点になつてある

えておいて頂きたいですね。」